

DAPPE



うつちやれ、シテイライフ。



記念祭

令和

上佐久間

こんにちは、地域おこし協力隊の室井翼です。鋸南町に来て半年が経ちました。皆様のおかげでだいぶ環境にも慣れ、毎日楽しく過ごさせてもらっています。平成生まれの自分は初めて元号が変わる瞬間を体験しました。

5月1日に上佐久間地区で記念祭をやると聞いたので撮影をしてお邪魔してきました。移住してきて初めて目にする祭り。以前住んでいた場所では見ることのなかった地域住民のつながりがとても楽しげで、あたたかく感じられ、雨でずぶ濡れになりながら夢中でシャッターを切っていました。

これからの季節、祭りが各地区であると聞き、毎回潜入しようかと企んでいますのでどうぞよろしくお願います。一見不審に見えるかもしれませんが警戒しないでください。怪しい者ではありません。本当です。笑顔に向けていただけると喜んで写します。



6

地域おこし協力隊の鋸南ぐらし。

発行元 鋸南町地域おこし協力隊
鋸南町保田66-1
発行日 2019年6月5日
編集 室井翼 (移住定住担当)



まちづくりにとって大切な視点とは？

人との出会いがあつて
思い出が残るのではないかな

4月26日、町内外の人をお招きし
私たち地域おこし協力隊の拠点である
保田駅前物件でまちづくりに関する
意見交換会を行いました。昼の部と夜
の部で夜の部で、合計20人にお集まり
いただき、ワークショップをした後、ディ
スカッションをしました。

昼の部では、「保田駅前の課題」につい
て話しました。課題としては、「土産も
がない」「ふらつと立ち寄れる場所が
ない」「タクシーがない」「閑散として
いる」「駐車スペースがない」という意見が
大半。

ディスカッションでは「土産ものとは、
保田小学校に置いてあるものだけでは
ない。人との出会いがあつて、よい思い出
が残る、それも土産ものではないか」と
いう指摘も。

女性参加者の一人が、「観光客を集め
てお金を落としてもらおう発想はやめよ
う。まずは、実際に住んでいる人が幸せ
に暮らしているということが大切。そう
いう暮らしをしてみたいという人が集ま
るのではないか」と言うと、参加者がほ
ぼ全員、納得したのが印象的でした。

夜の部の貴重な意見としては、「まち
づくりに関心のある移住者だけで、地
域づくりはできない。地元の人と協力が
ながら、まちづくりを考えていくことが
大切」というものがありました。

「まちづくり」に大切な視点は何か？
「意見交換会」では、そんなことを考え
させられました。



ちなみに、地域おこし協力隊として、
昨年、東京から移住している私は、「大
きな観光地ではないけれど、鋸南は住
み心地のよい町」という感想を持って
います。住み心地がいいって、結局は幸
せに暮らせているってことなんじゃない
かと、今回の意見交換会で改めて感
じました。

小さな町にある小さな幸せ。
それを大事にしていくことが
この町にとって大事なのだと思います。

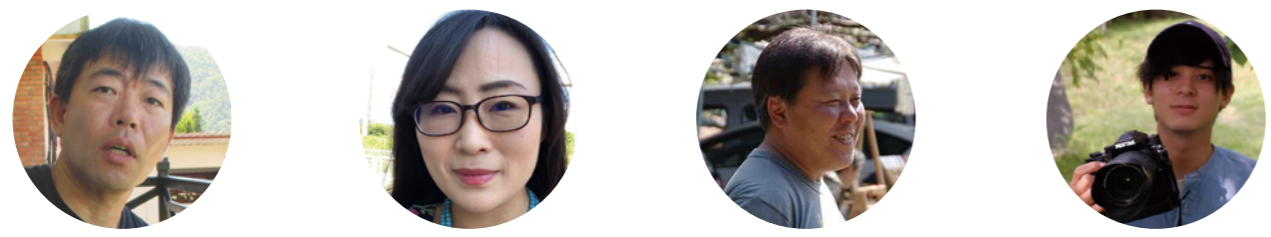
- ・今回、いただいた主な意見は次のとおり。
- ・町民でスキルを持つている人がワークショップを行う。
- ・学校帰りの高校生が集まれる場所。
- ・子どもの遊び場。
- ・予約制でいいので、コーヒーが飲める場所。
- ・イベント会場。
- ・房総について知ることのできるコミュニティ図書館
- ・赤バス、青バスを活用したツアー
- ・駅前フリーマーケット
- ・保田↓岩井↓館山という駅をつなぐ
- ・鋸山ナイトクライム

拠点の名前が決まりました！

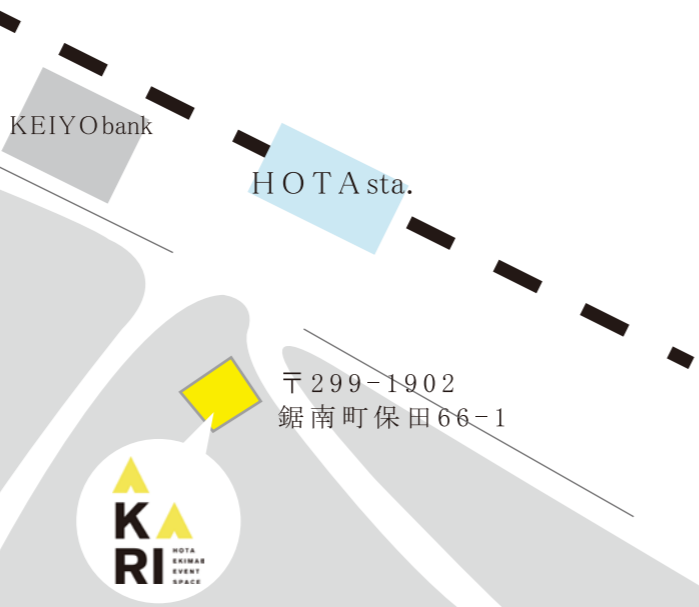
駅前に灯る明かり。明かりの灯る、人の集まる場所へ。

AKARI HOTA EKIMAE EVENT SPACE

イベント情報はDAPPEや地域おこし協力隊Facebook、AKARIにポスター等を掲載してお知らせします。



Kyonan-machi Awa-gun, Chiba, Japan



地域おこし協力隊 Facebook



「観光」のこれから

こんにちは！地域おこし協力隊、有害鳥獣対策担当の黒澤です。日々、獣害対策に関わる諸活動につきまして、町民の皆さまの多大なるご協力に深く感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

前職が観光業だったことは以前、触れましたが、観光業に長年携わっていたことで、観光による弊害も見てきました。「観光公害」という言葉もあります。観光客が大挙して押し寄せることが、地域住民にとって必ずしも良いことではないのではないかと、静かな生活環境を損ねるような過度な観光客の訪問は、必ずしも歓迎されるものではないのではないかと、地域振興という、観光事業が注目されがちですが、多くの観光客が押し寄せて、とにかく買い物をして現金を落とすしていくことのみを目指す方向性はどうか？など。

以前の職場では、いわゆる「発地型旅行」といって、旅行目的で地域の魅力発信する「着地型旅行」とは異なる旅行商品を造成していました。端的に言うとうと、都市部の観光客がイメージする地域の魅力をパッケージングしたツアーを造成し、都市部で参加者を募り、地方を往復する形。買い物や宿泊程度の消費活動を通じて地域に経済的メリットを生む昔ながらのマスツーリズムの形です。その旅行には、どこか地域の方達との交流がなく、ただ、旅行目的の地の資源を消費するのみの一方的な観光だったと思います。

誰のための観光事業なのか？とか、真の地域の魅力を伝える手法が、都会から地方へまなざしやお客さんを送り込む形の発地型旅行では十分ではないのではないかと感じ始めました。「着地型旅行」はその逆で、地域を良く知る地元の人、地域の事情に則した旅行のパーツを造成することで、より地域の魅力を伝えやすいと言われています。

そうして狩猟や有害鳥獣対策という別の関心事とあわせて鋸南町の魅力を、鋸南町に住むひとりの町民として関わり、観光事業に挑戦できないか？という気持ちが芽生えました。今は、地域の皆さま・環境の魅力や課題に自らの日常生活で直接関わることを通じて町民の皆さまの実感を共有し、これからの仕事(獣害対策支援事業、狩猟関連旅行等を扱う業務)に活かしたいと考えています。協力隊としての任期は残り少ないですが、退任後も続けられるよう、焦らずに取り組んでいきたいと思っております。

人口減少・過疎化、獣害など課題はあつても、この美しい鋸南町や住み慣れた自らの集落を存続したいという町民の皆さまの気持ちに寄り添い、そのために自分ができることは何かを自問しています。SDGs(エス・ディー・ジーズ)という用語があります。2015年9月の国連総会で全会一致で採択されたアジェンダの通称で、「Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標」の略です。一般的には国連が策定したということ、地球レベル、国際的なものでもなく大きな目標のように聞こえますが、実は地域づくりの本質に必要なツールと言われている。地域の課題を包括的に捉え、地方創生実現のために推進が必要なものや、取り組みとされています。こんなものも参考にしながら、引き続き課題に取り組んでいこうと思えます。

成功とは何か？と考えると、経済的な成果や、短期的な評価や評判だけではない、取組みを「続けること、続けること、続けていくこと」(1)が「Sustainable」持続可能なことという分かりやすい意味)だという信念をこれからも、心に抱き続けたいと思っています。